

常在靈鷲山

第2号

令和四年四月 春
発行 常在山 本土寺



冬の間、白一色で寂しかった境内も、春を迎えて段々とにぎやかに変わってきました。
私事で恐縮ですが、花の季節は不思議と気持ちすがすがしく感じます。梅の花もひと段落つき、これからは境内の桜が開花の時期を迎えます。どうぞ、当山までお気軽にお花見にいらしてください。

近況報告

春は種まきの季節です。

当山も毎年三月の半ば頃より、境内のハスとスイレンの植え替え作業に追われます。

今年は何かと忙しく、気が付けば、植え替え作業がほとんど進まないまま、四月を迎えてしまいました。

しかし、いざ掘り返してみますと、昨年の植え替え時に油粕を施肥したのが功を奏したようで、特にハスは、植え替えの鉢が足りなくなる程、丸々と大きなレンコンが収穫できました。今年も夏頃に白く美しい花が咲くと嬉しいな、などと思いを馳せながら、寺務の合間に、お世話に勤しみたいと思います。

「寺報」復刊のお知らせ

諸般の事情により発行が滞っており、当山の寺報ですが、この度、おかげさまで、復刊する運びとなりました。

平成元年七月、当山の近況を檀信徒の皆様にお伝えしたいとの一心で、集まった当時の有志により、寺報「本土寺たより」は刊行されました。

あれから三十数年、当時まだ生まれてもいなかった現副住職が当時の意志を継いで、「常在靈鷲山」と名前を改めて新たに寺報を刊行することになったのは、何かのご縁なのかもしれません。

今後、寺報は春・夏・明・冬の年四回にわたって発行してゆく予定です。紙媒体でもご用意しますが、当山のホームページ「常在山 本土寺」(<https://www.jozaisan.org>) にも閲覧できます。

なにぶん、副住職が一人で発行しておりますので、何かと不備があるかと思いますが、温かい目で見守っていただければ幸いです。

お手隙の際にでも一読していただければ、そして何より、当山をより身近な存在に感じていただければ、執筆者として冥利に尽きます。

合掌